

舌診入門④

病的な舌の所見

三谷和男 京都府立医科大学東洋医学講座

舌の形態

今回は、前号（通巻38号，2007）で説明した舌の形態について、実際の写真を掲載するお約束になっていました。説明文と照らし合わせながら、ご覧いただきたいと思います（写真1～9）。

舌の運動

舌の動きがスムーズで、舌体自体がやわらかく、生き生きとした光沢のある場合は健康で、たとえ疾病があるにしても重篤とはいえません。

ところが、舌の運動が円滑でなく、言語もはっきりしない場合は「舌強」といい、中枢神経系の疾病を疑うことが多いのですが、いずれにしても他の所見と合わせて病態を考える必要があります。他方、舌体がフニャとしていて（やわらかすぎて）、動きが悪く、無力である場合を「舌痿」と呼びます。神経変性疾患（例：筋萎縮性側索硬化症）によって起こることが多いのですが、舌質の色調によって薬方を考えることが大切です。

舌を出したとき、ピクピクと細かい動きがある場合、これを「舌戦」と呼びます。アルコール中毒とか甲状腺機能亢進・高血圧・高熱が持続する場合にみられます。この場合は、「気虚」として薬方を考えます。そのほかに脳卒中後遺症などでみられるように、舌尖が一側に偏る「偏斜」とか、舌体が巻き上がったようになって、固く締まり、収縮して出せない「縮舌」（危険な徴候です）、舌を繰り返し繰り返し、外へ出して口唇を舐めるよ

うにする「弄舌」があります。小児では知能の発育不良を示しますが、中枢神経系疾患では、舌を微かに口外へ出したかと思うと、すぐに口内に戻す場合がありますが、これも「弄舌」に属します。いずれも「虚証」と考えます。

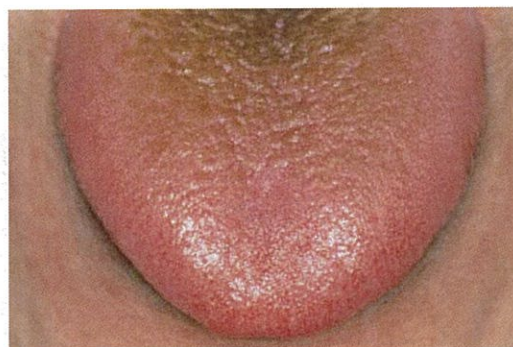


写真1 着色された舌苔



写真2 腫大した舌

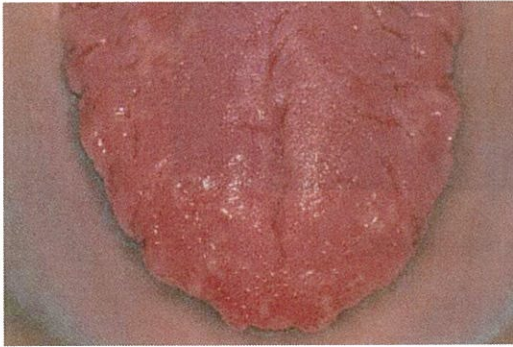


写真3 羸瘦した舌

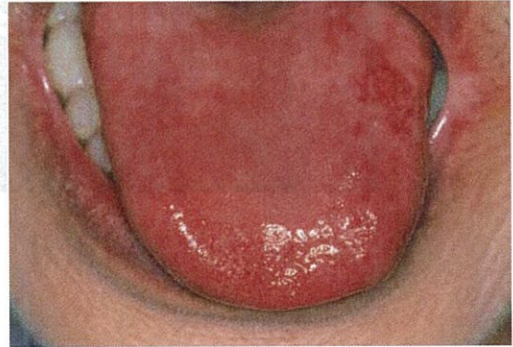


写真7 鏡面舌



写真4 「熱盛ニヨル津液不足」の舌

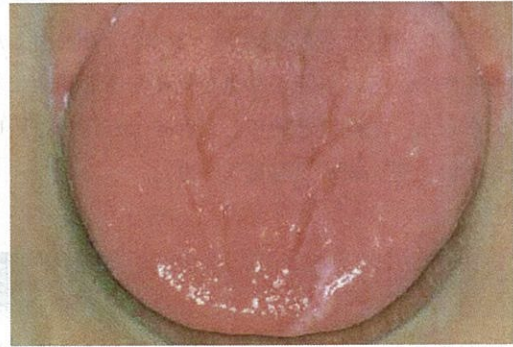


写真8 亀裂舌

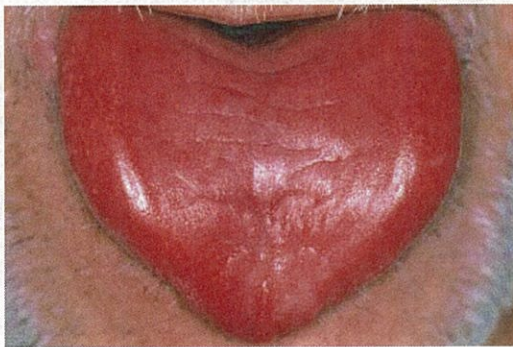


写真5 「陰虚シテ熱盛ン」の舌

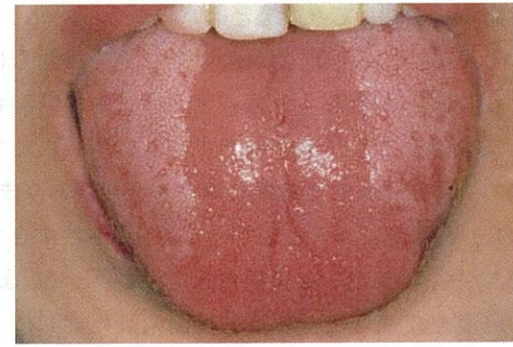


写真9 地図状舌

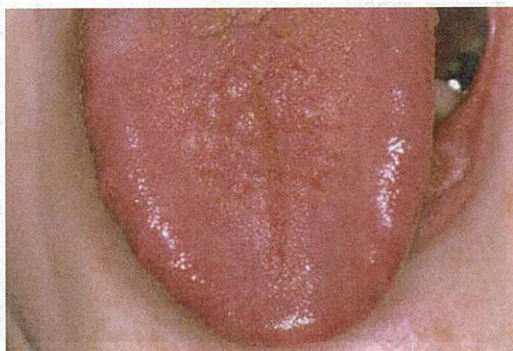


写真6 「血虚」の舌